



えひめハッピーライフ



半径1km以内の仕事と子育て

愛媛大学 農学研究所 准教授 武山 絵美先生

1km圏内の生活・就業環境

私は、小学生の子どもを育てながら、農学部で野生動物と人間が共存しうる農村空間の設計手法を研究しています。農学部は樽味キャンパスにあります。自宅からの通勤距離は直線距離で1km程度、徒歩で25分程度の道のりです。子どもが小さい頃にお世話になった保育所も同程度の距離にあります。出張の際に利用する松山駅は自宅近くの駅から路面電車で約20分、松山空港は同じく自宅近くのバス停からリムジンバスで30分の距離にあり、利便性も抜群です。愛媛県内に点在する調査フィールドへも、高速道路等を利用して車で片道2〜3時間程度で大半

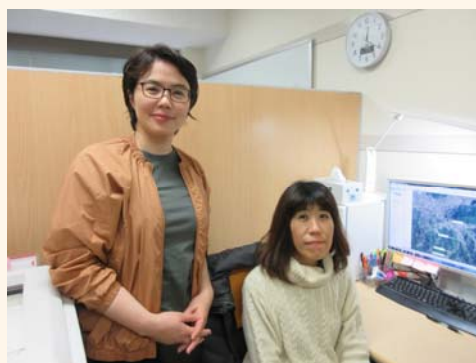


の場所に行かれます(近いフィールドは車で15分)。家の近所で働き、家の近所で子どもを預けられる環境は、子育てと仕事を両立するうえで大変ありがたい環境です。松山市は町自体がコンパクトにできており、気候も温暖で大変暮らしやすい町だと感じています。

若手研究者支援事業

愛媛大学には、子育て中の研究者が研究支援員を雇用するための経費を補助する「若手研究者キャリア支援事業」があります。私はこの制度を平成23年度から利用させて頂いています。制度発足当初、子どもも小さく自分と家のことで精一杯であった私は、人を雇い入れてきちんと雇用管理ができるのか、余計な手間が増えるだけではないのかと不安に思い、事業の利用を思いとどまっていました。そんなとき、初代女性未来育成センター長・小島秀子先生(工学部)が直々に私を訪ねて「あれ、あなたのような子育て中の女性研究者に、たくさん論文を書いてもらわないといけないから」と事業の活用を強く勧めさせて頂きました。研究支援員採用のための面接にも同席頂き、様々なアドバイスを頂いたことが今でも忘れられません。その

とき雇用させていただいた研究支援員は、今では私の研究生活になくてはならない存在となっています。



農学部環境

私が平成15年に愛媛大学に採用された当初、農学部には既に2名の女性研究者がいらつしやり、ことある事に「何か困っていない?」と声をかけてくださいました。女性研究者が不当な不利益を被ることがないように会議等でも積極的に「発言いただき、私はそのそばで不安なく仕事にあたることができました。産休・育休から復帰した際も「仕事は大丈夫よ、子育てを楽しんで!」と声をかけて下さり、どれほど心強かつたかわかりません。

このように、キャリアを積んだ女性研究者が若手の研究者を育てる気風が、農学部にはあると感じています。また、女性研究者同士でランチ会をしたり、子連れでピ

アガーデンに出かけたりすることもあり、相互にいつでも気軽に相談し合える(そして愚痴も言い合える!)関係を築いています。これは先駆者の女性研究者達が残して下さった農学部の財産だと思います。



大学の制度を活用

女性未来育成センターには、女性研究者のキャリアアップに係る様々な勉強会を企画していただいています。私はこれを積極的に利用することで、大学や社会の期待に応えうる人材に、自分を育てていきたいと考えています。

また、愛媛大学には長期休暇中の小学生を対象とした学童保育制度もあります。アルバイトとして参加してくれる大学生達と、大学の付属施設等を活用して思う存分遊ぶことのできる環境は、他の保育機関にはないものだと感じています。私が愛媛大学に勤めているからこそ、子どもに体験させてやれることがあると感謝しています。